ヒュッテ白樺

森岡則明

NORIAKI MORIOKA

ヒュッテ白樺

鳥取県八頭郡若桜町つくよね631-29

TEL0858-82-0955

http://shirakaba.org/

●若桜町青少年育成アドバイザー●若桜氷ノ山樹氷太鼓の会代表●氷ノ山遭難救助隊●氷ノ山登山ガイドクラブ●NACSJ自然観察指導員●日本山岳ガイド協会登山ガイド

子どもたちのヒーロー 氷ノ山（ひょうのせん）の心優しい山男

氷ノ山は遊びの宝庫。
春夏秋冬、異なった
山の息吹を感じながら
仲間と一緒に駆け出そう。

氷ノ山の自然体験はオールシーズン

キッズキャンプを本格的に行い始めたのは、10年くらい前になります。家族連れのお客さんからスキーを教えて欲しいという要望に応えていくうちに、泊まりこみで来てくれた数家族から、こんな企画してくれたら参加するのになーって声があって、じゃあキッズキャンプとして企画してみよう！ってこれまで開催を重ねてきました。

冬のスキーや雪遊びだけでなく、春は山菜採りをして、天ぷらにして食べたり、夏は川でシャワークライミングや魚つかみ、BBQなど、また秋には登山やツリーイングなどの森遊びがオススメ。オールシーズンその季節に応じた自然体験を通しての仲間づくりが目的です。

対象を小学生中心にしていますが、親子会などのグループでの体験活動も受け付けています。お客様からの要望にもできる限り応えています。

スキーシーズンになると、
ヒュッテ白樺前に現れる、巨大カバがまくら。

山（氷ノ山）あり、海あり、砂丘あり。

約1時間圏内で海も山も砂丘も楽しめる環境は、ここ鳥取にしかないでしょう。

鳥取の山といえば、やはり大山がまず浮かびますが、氷ノ山は兵庫県では一番高い山。特に関西方面から人気が高いです。氷ノ山は自然の希少植物や希少動物も多く生息しています。冬は樹氷も見られます。県内の方には自然が身近過ぎてその魅力を感じにくく、自然体験はいつでもできるからとあまりされてないように思います。しかし体験するとその楽しさにハマり、リピーターも多いんです。

「リスの森」「氷ノ山」「若桜氷ノ山樹氷太鼓の会」

うちの子どもたちに遊園地に行くのとリスの森に行くのどっちにする？って聞くと、「リスの森」って即答しますよ。若桜ニホンリスの森作りプロジェクトのメンバーの一員でもあり、子どもたちと大人も一緒になって秘密基地として「リスの森」で遊んでいます。

空き時間を見つけては氷ノ山に年間100回近く登っています。図鑑には植物の一番美しい所しか載っていないけど、毎日のように登ると、昨日までは咲いていなかったつぼみがこんな花や実になるんだ！っていう、新しい発見に出会うんです。それが楽しいです。

雪山のバックカントリーやスノーシューハイク等、雪原の別世界に出会えるのも冬山の魅力です。

若桜氷ノ山樹氷太鼓の会の代表として、メンバーと共に練習を重ねています。氷ノ山を愛する仲間で集い結成し、氷ノ山の魅力を和太鼓の音で表現しながら若桜町内外のイベントに出演しPR活動を行っています。

若桜氷ノ山の伝道師として

昨年、日本山岳ガイドの資格を取得したので、山の案内などの活動の幅を増やして行きたいと思っています。例えば、ご来光ツアーは現在イチ押しの企画です！山は天候が変わりやすく、様々なリスクを伴います。そこで私たちガイドがお客様の安全と、目の前の新しい発見を共に楽しみながら歩く事ができると嬉しいです。氷ノ山にはたくさんの仲間がいます。様々な視点で意見交換をしながら、氷ノ山の面白さを伝えていければと思っています。

近年ではBMWモトロードキャンプやトレイルランニングレースが開催されましたが、観光やアクティビティとして夏場の氷ノ山を楽しめる環境が他にもっとあればと思っています。

その自然にこそ最大の魅力がある

近年、鳥取のいろいろなフィールドが県外から注目されています。逆に県外から注目される鳥取の良さを、地元の人が気づいていないように思います。

鳥取は田舎だし、山しかない！ではなくて、その田舎だからこそ、その山に魅力があるって事に気づいて貰えたらと願ってます。そこにはまず、そこで育った私たち大人が、それぞれのフィールドでバカになって遊ぶ事です！

さぁ、皆さんも一緒に!!

氷ノ山ではオールシーズン豊富な自然体験が可能です。

写真撮影／中谷英明　写真提供／ヒュッテ白樺

とっとり人

自然豊かな森に子どもたちの声を響かす開拓者

まるたんぼうのフィールドは
雨の日も雪の日も森。
大きなリュックを背負って
長靴を履いた子どもたちの元気な声が
今日も智頭町の森のどこかで聞こえてくる。

特定非営利活動法人 智頭町森のようちえん まるたんぼう 理事長

西村早栄子
SAEKO NISHIMURA

特定非営利活動法人 智頭町森のようちえん まるたんぼう
鳥取県八頭郡智頭町大屋407
TEL0858-78-6789
http://marutanbou.org/

東京都出身。大学在学中にマングローブ研究に興味を持ち、1年半ミャンマーへ留学する。夫の出身地である鳥取の県庁に入庁後、智頭町へ移住し、子育てしながら2009年「森のようちえん まるたんぼう」を開園。2014年フリースクール「新田サドベリースクール」を開校。

育みのまち智頭町に惚れ込みました。

東京出身ということもあり以前から田舎暮らしへの憧れがありました。京大在学中に結婚した主人の出身地が鳥取だったことで、最初は主人の実家の鳥取市に住みました。

その後、県の八頭総合事務所で林業の技師として働いている時、現場となる智頭町によく入るようになり、智頭町にどっぷり惚れ込んでしまいました。

こんな山の息吹を感じられる所で子育てできたらいいなと思って、2007年に智頭町大屋の古民家に移住しました。

それと同時に、2人目の育休と重なって、智頭ですごく満たされた子育てを自分なりに2年間することができ、これは自分ひとりで楽しんでいるのはもったいない！と思い始めたんです。

森の中には新しい発見がいっぱい。

町内14箇所のフィールドのどこかで毎日活動しています。

日本10大林業地 智頭のフィールド

東京出身なので思うことなのかもしれないですけど、こういった田舎でのんびり子育てしたいと思っている人がいっぱいおられると思ったんです。そういう人たちに情報発信したいと思っていた時に、以前デンマークやドイツにある森のようちえんについて書かれた本を読んでいたので、この森のまち智頭町で森のようちえんを作ったら、田舎で子育てしたい人が集まってきてくれるんじゃないかな、と思ったのがきっかけです。

智頭は有名な伝統林業地であり、すばらしい森が至る所にあって、この豊かな自然環境を120％使いこなせば、ここ智頭ならではの魅力的な森のようちえんができる！と確信しました。

見守り保育が主体性を育てる

ここの方針でもある「見守り保育」は、子どもがものすごく育つんです。自分で考えて、自分で判断して、自分で解決する、という力がどんどん身に付いていきます。子ども同士で助け合いの精神も生まれます。なので私は、森のようちえんを出た子どもたち、フリースクールの新田サドベリースクールに通っている子どもたちに、ものすごい可能性を感じるんです。

我が子も2人目と3人目が森のようちえんを出て、今サドベリースクールに通っています。彼らがどんな大人に育っていくのか、これからが本当の楽しみですね。

みんな我が子の成長のように思っています。

卒園後はフリースクール 入園前は〝出産〟から

開園後この8年間で37人（約30家族）の方が移住してきて、近年はこの森のようちえんを目指して毎年5～6組の家族が移住してきています。この先森のようちえんを運営して行くだけでは満足できなくなってきました。

それで森のようちえんを出た子どもたちが、自由な学びをそのまま続けていくことができる「新田サドベリースクール」というフリースクールを2014年から始めました。今はここのスタッフとしても活動しています。

あともうひとつ大きな目標として、今度は森のようちえんに入る前の赤ちゃんを産むところから関わりたいなと思っています。自然分娩ができる産院を智頭に作ろうという動きもあって、これに携われたらいいなと思っています。

移住者が鳥取の魅力を引き出す

鳥取は人口が少ない分、行政との距離も近いですし、何か新しいことを始める時に協力を得られやすい環境だと思います。

私自身もそうですが、鳥取には若い移住者が増えてきています。よそ者から見ることで、鳥取の魅力が逆に分かるという点では、移住者が鳥取の可能性を引き上げていることに一役かっているのかもしれませんし、そうありたいと思っています。

地域の方に昔からの遊びや知恵を教わります。

写真撮影／中谷英明　写真提供／智頭町森のようちえん まるたんぼう

「とっとり人」番外編

まだまだ話し足りないようなので、「とっとり人」の集う場所で話をきいてみました。

（取材場所：ぐらっちぇ本店／鳥取市）

自然体験を提供していて気になっていることは？

中　谷：最近親子で参加される方でたまに違和感を感じているのが、子どもの服やウェットスーツの脱ぎ着を親がしてやるんですよね。

山　下：あー、ありますね。（皆が分かります！とうなずく）

長谷川：ガイドが言ったことを子どもにまた通訳のように話をする親とかね。

大　堀：子どもに話しかけてるのに、親がヒュッと入ってきて親が出て答えたり。僕たちは子ども一人一人と向き合いたいと思っているだけなんですけどね。

森　岡：うちのキッズキャンプは親は送り迎えだけで、あとはクローズなんでそういうことはないんですけど。

間屋口：いわゆる母子分離過程といって、子どもと親が離れる過程をどうやって健全に育成するかっていうことになると思うんです。それが形成されにくいから、今の子どもは寂しいとすぐ感じたり、孤独や暇が耐えられない。（皆がうなずく）

間屋口：学校教育の中での現状はどうなんですか？

森　岡：県内の小・中・高のスキー合宿を受け入れているんですけど、高校は2泊していたのが1泊になったりで減ってますね。保護者からも怪我を気にされたりすると、やっぱりそういう決断になったりするんじゃないですかね。

間屋口：でも本来であれば、そこって重要ですよね。学校教育の中にスキー合宿が入ることで、卒業して大人になってからもゲレンデに行く、自然に触れる可能性があるわけですから。

中　谷：臨海学校もそうだけど、危険を伴うものは敬遠される風潮になってきている。

間屋口：スキーだけでなく、雪遊びでもいいような気がするけど。単純に雪合戦とか。

山　下：僕が同行した学校は雪合戦禁止ですよ。これは授業だからって。

間屋口：そうなると、スポーツの研修ではなくて、「自然を使った学習」という位置づけにした方がいいかもしれませんね。

大　堀：小さい時から自然学習に親しむ環境があるといいですよね。自然体験プログラムをしていると、パッと子どもの心が開く瞬間があるんですよ。この経験は子どもたちにとって大事な事だと思う。

間屋口：教育できちんと位置づけていけば、自然の使い方がもっと分かるのに。実際に自然を使っていい経験をしたという声があるにもかかわらず、学校現場の教育の中でこれが遠のくっていうのは、なんか逆行していっているような気がしますけどね。

中　谷：海や山に行くのは、教育的な成果を求めて行くのと、レジャーや観光の目的で行くのとある。例えば観光だと人とは違ったことをやるのが達成感だったりする。これは教育にはないもの。

間屋口：自然体験を学校教育の中でできることが理想ではあるけれど、なかなかそう簡単にはできないですよね。

長谷川：僕は岩美西小学校でカヌー教えてる。

山　下：岩美北小学校でサーフィン教えてます。岩美は結構ありますよね。

中　谷：岩美町の場合、ジオパークの地域学習の一環としてもやっている。

間屋口：そうですね、学校教育の中に自然体験まで任せてしまうと、それを担う先生への負担が大きくなってしまいますね。岩美町のように他の学校も地域学習の一環で我々が自然体験を提供できればいいわけですよね。そしたら先生も一緒にシャワークライミングを楽しめる（笑）

自然体験が持っている力は
ただ単にアクティビティ、スポーツ、レジャーとしてだけじゃなく
「学習」という、うたってない重要な部分があるんです。

とっとりの元気づくり
東部プロジェクト
幹事長 間屋口さん
特定非営利活動法人
地域スポーツ推進協会

とっとりの元気づくり
東部プロジェクト
副幹事長 長谷川さん
鳥取県自然体験塾

山下さん
Develop SURF&SEA

森岡さん
ヒュッテ白樺

中谷さん
Tottori Blue Snorkel
& Photo Service

とっとりの元気づくり
東部プロジェクト
幹事 大堀さん
特定非営利活動法人
ハーモニィカレッジ

これから先、思うことは？

長谷川：外国人の旅行客が増加傾向にある中で、ゴールデンルートの東京や大阪、京都はもうあふれているので、鳥取にも来るようになってきているんですよ。だから、僕は面白いルートを作れば、さらに来てくれると考えている。今年から地元の用瀬で「癒し歩き」というのをやろうと思っていて、他にもそういう面白いことがいっぱいあると思うんですよ。だけどその資源の活かし方にまだ気づいてなかったり、活かせるスキルがなかったりするので、活かせるアクティビティを生んでいくよう、自分たちが考えていけたらいいですね。

森　岡：僕は去年ガイドの資格を取ったんで氷ノ山のご来光ツアーというのをたまにやってます。山頂まで上がって日の出を見るって、ほんと感動的で。自分も大人になるまで近くにこんないい景色があるなんて気づかなかったし。見た人はみんな感動して、『また行きたい』ってリピーターも多いんですよ。氷ノ山でご来光見て、砂丘で海に沈む夕日を見るとか今日１日の太陽を日の出から、日の入りまで鳥取で見るっていうツアーとかできたらなって考えてますね。

大　堀：この夏、子どもたちにツリーイングを教えていたインストラクターが、木の上から見る景色と下から見える景色をどんな風に見えるか子どもたちに投げかけてたんですよ。要は、自分のモノの見方って日常の中でも、視点を変えればいろんなモノの見え方ができるよねって伝えてて。子どもたちは自然の中で、心が開かれている状態でそれを聞いているから、心に言葉がドーンって入っていて、帰り道、木に「ありがとう」とか「根っこ踏んづけてごめんね」とか言ってるんですよ！それで、あー、こういうインストラクターになりたいなって。ただ自然体験するだけじゃなくて、そこにちょっと違う視点を当ててあげることで、自然がより際立つんやなって。

間屋口：ガイドや指導する側の人間の「幅」っていうのは必要なのかも。

山　下：自分はまだプレイヤーだから、とにかく子どもたちにサーフィンをさせたい。サーフィンの楽しさと海の危険を学校教育の中で教えたい。20年以上サーフィンやってるけどまだ上手くなりたいし、まだまだ海にも入りたいもん。それぐらい楽しいスポーツだと思うから、それを伝えたい。

間屋口：すごい！キング感のある台詞でしたね。50になっても60になってもみたいな（笑）

中　谷：僕が鳥取の自然に魅せられているその共通となる感覚は「浮遊感」。スキーだと新雪を滑っている時、海だと水中で浮きも沈みもしない状態で漂っている時、サーフィンだと波に乗った瞬間。全てが日常では体験できない無重力な感覚ですね。これがやみつきの根源。しかもそこにいないと見ることができない特別な景色が繰り広げられる。それを撮るためにさらに夢中になっちゃうってサイクル。

間屋口：普段見ることができない景色を見るってことが新しい発見だったりするので、鳥取でこんなの見られるんだっていう気づきになりますよね。中谷さんの写真はまさにそれですよね！

森　岡：山でもありますね。景色もそうですけど、同じ山、同じコースを歩いても、昨日はまだつぼみだった植物が今日は綺麗な花を咲かせてる！とか。その時、その瞬間じゃないと出会えない新しい発見がたくさんあります。

山　下：サーフィンでも人に教えたくないくらいいい波に出会う時がありますよ。これは独り占めしたいって（笑）

間屋口：トレイルオンのファットバイクをしている砂丘のカット（右下の写真）もすごいですよ！ここ鳥取？？って思える風景！

大　堀：見たい！見たい！（皆がスマホの写真を覗き込む）

山　下：えー、すごい！これが砂丘の海？ウユニ塩湖みたい！

中　谷：レアな体験ですね。こういう場所もそうだけど、地元の人も最近意識が変わってきて、例えば砂丘に雪が降ればやってくるわけですよ。目的はSNSアップ。それはやっぱり鳥取の景色を自慢したいんですよ。

森　岡：本当にそうですね。気づくところがいっぱいありますもんね。

中　谷：だから地元の人は何もない田舎だと思わずに、もっと鳥取に自信持っていいんですよ。

間屋口：そこをここにいる我々が率先してアピールしたいですね。（皆が納得）

鳥取自慢を「とっとり人」が広めていきたい。
そして、そんな「とっとり人」も育てたい。

鳥取砂丘で体験中のファットバイク
（提供：TRAIL ON）